



日本おもちゃ病院協会の人材育成

にっ た て る お
(一社) 日本おもちゃ病院協会 理事・事務局長 新田 輝夫

「おもちゃ病院」の活動の継続、拡大のために人材育成は重要施策として、2024年協会発足当時から認識してきました。おもちゃドクターを養成する講座内容とアフターフォローの充実、働き方の変化に対応していくことが今後の課題です。

日本おもちゃ病院協会について

壊れたおもちゃを修理するために必要な公的な資格はありません。機械や電気の知識や経験があれば修理することは可能です。定年退職後の趣味の一環で、おもちゃの修理をしていた人が「おもちゃドクター」として「おもちゃ病院」を自宅などで開院していました。

各地でおもちゃを修理していた人たちの情報交換、技術の向上、おもちゃ病院の普及を目指し、1996年5月30日に60名が参加し、前身である「おもちゃ病院連絡協議会」（以下「連絡協議会」）が発足、昨年7月に「一般社団法人日本おもちゃ病院協会（以下、「協会」）」を設立して、その業務を引継ぎ、活動をしています。

協会は、おもちゃ病院、およびおもちゃドクターの活動を支援するとともに、おもちゃの修理を通して子どもの情操教育や社会貢献に寄与することを目的としています。

主な事業としては、

- (1) おもちゃドクター、おもちゃ病院の支援
- (2) おもちゃドクターの養成
- (3) おもちゃドクターおよびおもちゃ

病院との情報交換

- (4) おもちゃ病院およびおもちゃドクターに関する広報活動
 - (5) おもちゃの修理に必要な工具および部品等の販売
- などです。

「おもちゃドクター」とは、壊れたおもちゃをボランティアで修理する個人。ここでいうボランティアとは、「自発的な意志に基づき他人や社会に貢献する行為」としています。

「おもちゃ病院」は、おもちゃドクターが集まり、壊れたおもちゃを修理する場所と定義しています。

おもちゃドクター養成講座

連絡協議会の発足当初からおもちゃドクターを育成し、おもちゃ病院を広めていくことを意識しており、現在、協会においても「おもちゃドクターの養成」という人材の育成を重要な事業として位置づけています。

連絡協議会が発足した1996年の12月1日に第1回「おもちゃドクター養成講座」（以下、「養成講座」）を開催しました。以来、協会本部が主催する養成講座は2025年2月の開催で127回に

なりました。

永く定年退職後の趣味として、おもちゃドクターになろうという人が多くいましたが、定年退職年齢が55歳から60歳。さらに65歳、70歳となってきたことから、おもちゃドクターを目指す定年退職者の年齢が引き上がるとともに活躍できる期間が短縮してきています。

一方、意識の変化からか現役世代の人たち、特に女性の受講者が増えてきています。

また、以前は電気や機械関係の仕事に従事していた方が中心でしたが、現在は保育士や学生といった方もみえます。

当初、協会本部が主催する養成講座は「初級編」「中級編」として開催していましたが、その後「入門編」「実習編」に改編、現在は「入門実習編」「実践編」として開催しています。

協会本部が主催する養成講座以外に、地方の社会福祉協議会等からの依頼による「養成講座」も開催していますが、本部が主催する養成講座とは違い、短期間の「入門編」となっています。

「入門実習編」は約30名の受講者で年4回開催をしていますが、コロナ禍以降、定員を

オーバーする申し込みが続いており、現在は抽選制としています。

協会本部が主催する養成講座は3日間で行ないます。

第1日目は、「おもちゃドクターの活動状況」、「おもちゃドクターになるには」、「おもちゃドクターの心構え他」、「修理工具の種類と選び方」、「おもちゃに使われる電池の種類」、「材質別接着剤の選び方」と基本的な知識の習得が続き、「実習1：プラレールの分解組立」で初日は終了します。

第2日目は「修理用材料、部品の選び方」、「測定用具の種類と選び方」、「ハンダづけ手法」、「おもちゃの故障の主な原因」、「おもちゃの修理手順と症例パターン」を習得したあと、「実習2-1：線のつなぎ方」、「実習2-2：基板を使ったハンダづけ、(1)基本的なハンダづけ、(2)抵抗のハンダづけ」を行なったあとは、おもちゃ修理の際に使用することのできる「実習2-3：簡易電源パッ



写真1 おもちゃドクター養成講座風景

クの製作」を行い、「(3) LED 発光回路の作成」、「実習3: 回路テスターの使い方と測定法」で2日目が終了します。

第3日目はおもちゃ修理の際に使用することのできる「実習4: スピーカーテスターの製作」、「実習5: ラジコン電波検知器の製作」を行います。最後は「実習6: モーターの修理」を行い、「おもちゃ病院の開院について」、「質疑応答」で全講座は終了します。

養成講座では単に座学に留まらず、実習において、おもちゃドクターとして活動する際に使用できるものを作成するなど、無駄のない講習に努めています。

養成講座は4人程度を1グループとしています。実習の際にお互いに助け合うことも、その後の活動に役立ちますし、実習に際しては作業がスムーズにできるよう、各グループにスタッフを配置してサポートを行なっています。

受講に際し、ドライバーやニッパーやラジオペンチ等の工具を持参してもらっていますが、どのようなものを用意したらよいのかという質問が事務局に多数寄せられます。そこで、協会特製のドライバーセットやギアなどを引き抜く工具ギアプーラーの販売を行なっています。また、永年おもちゃドクターとして活動していた方のご遺族から協会に寄贈された工具や部品類も養成講座開催期間会場に展示しています。

養成講座の実習で使用する工具の中で「ハンダごて」をメーカーから提供を受けた最新の比較的高価格のものに変えたところ、実習がスムーズに進む

ということもありました。技量の不足を道具でカバーした例としてあげられることの一つです。

新人ドクターを育てる・支援する

壊れたおもちゃを修理するためのマニュアルはありません。

養成講座では、修理するための基本技能の習得の前に重要な事柄を指導しています。

「おもちゃドクターの心構え」として、修理の依頼主には「お客様」として対応すること、おもちゃの修理に責任を認識することとしています。

「おもちゃドクターの3要件」は(1)おもちゃの仕組みを理解すること、(2)修理方法を考えること、(3)修理する技術を習得することで、元の状態に戻らないときは依頼主と相談し、使用上の注意を伝えるよう指導しています。

ネットで検索すると修理事例がいくつか出てきて参考にはなりますが、同じおもちゃが同じように壊れるわけではないので、一つひとつ対応が違ってきます。

「おもちゃの修理の基本手順」は、①本来の動きを確認する、②故障の症状を正しく見極める、③故障の原因を推察する、④おもちゃを分解する、⑤故障の修理を実施する、⑥組み立てて元どおりにする、⑦使用上の注意事項を伝えるとなります。手順を間違えると元どおりになりません。

また、修理に際しては、法律に反すること、保証が必要または危険と思われる修理はしないこと、安全には充分

注意するよう徹底しています。

「修理すべきではないおもちゃ」として、①エアガン、ガスガン、電動ガン、②浮輪、浮袋、プール、③AC 100 ボルト直結利用するもの、④防犯ベルなど保証が必要なもの、⑤法に抵触する恐れのあるもの（電気用品安全法など）、⑥骨董的、工芸的な価値のあるものをあげています。

このような基本を逸脱すると依頼者であるお客様とトラブルになることから、「養成講座」の入門実習編では最重要事項として指導しています。

従来は、「養成講座」を受講したらそれで終わりでしたが、協会としては、養成講座の受講者に対するアフターフォローが重要であると認識しています。

既存の「おもちゃ病院」も、おもちゃドクターが高齢化し、新たな人材の参加がないと存続ができないという、重要な課題を抱えています。その解決策の一つとして、インターンの受け入れを実施しています。

養成講座の期間中にインターンとして参加するおもちゃ病院を決め、講座終了後速やかに参加するよう指導しています。50個程度の修理を経験しないとい人前のおもちゃドクターにはなれないため、早期に達成できるようにするには積極的な参加が必要だからです。

また、壊れたおもちゃが治り元どおりに動くようになった子どもたちの笑顔を早い時期に見ることができれば、おもちゃドクターとして活動し継続する大きな力にもなるからです。

ただし、首都圏以外の受講者は参加

できるおもちゃ病院が少ないこともあり、それをカバーする一環として通信教育形式のスキルアップ講座も開始しました。協会が集めた壊れたおもちゃを希望する人に送り、修理が完了しても、完了できなくとも期限までに修理レポートとともに返送する。それをいくつか繰り返して行うことでスキルアップを図ることとしています。

さらに、まだ平日フルタイムで働いている新人おもちゃドクターの受け皿作りという課題解決のため、毎週土曜日または日曜日に協会が主体となり、おもちゃ病院の開催・準備の検討を開始しました。ここでは、誰がその運営を担うのかが大きな問題となっています。土日は休みたいベテランおもちゃドクターと土日しか活動に参加できない若いおもちゃドクターとのギャップをどのように埋めるのか。人材を育成するための人材の確保に大きな課題となっています。

壊れたおもちゃをボランティアで修理する「おもちゃドクター」として活動していくには、養成講座の受講に始まり、工具や修理に必要な部品類を揃え、活動拠点までの交通費も必要で、お金がかかります。協会の会員は会費も必要です。各おもちゃ病院では会場の賃貸費用が必要などところもあり、その負担も発生します。

協会として、人材の育成と、その活動の支援を両輪として、ドクター不足、後継者不足の解消をめざして取り組みを進めていきたいと考えています。